

る南蠻文字の解讀に關する部分では、Pelliot, P., *Les plus anciens monuments de l'écriture arabe en Chine*, J. A. Julliet-Août, 1913. p. 177-91 にみえる Cl. Huart の研究を參考して、四十餘年前に發表した本論文に補訂を加えたものである。この講演の公刊は神田館長の切望されるところであるが、博士の校閲を經ていないその速記録ははなはだ不完全で、遺憾ながら、到底公刊に堪えないと思われる。ありていにいえば、これに據つて論文を補訂することさえ差當つては困難である。たゞ、博士自身の手訂本があつて、これと速記録とを對照すると、少なくとも南蠻文字の解讀の部分については、博士の最後の見解を確かめることができる。史學研究會講演集所收の原文と本論文集所收のものとの間に著しい相違があるのはこのような事情に依ることを諒承されたい。